

ポスター | 1-05 画像診断

ポスター

画像エコー

座長:小野 博 (国立成育医療研究センター)

Sat. Jul 18, 2015 11:20 AM - 11:56 AM ポスター会場 (1F オリオン A+B)

III-P-015~III-P-020

所属正式名称:小野博(国立成育医療研究センター 循環器科)

[III-P-019]小児のファロー四徴症術後症例における三尖弁収縮期移動距離 (TAPSE)-心臓カテーテル検査データとの相関について

○永峯 宏樹, 白神 一博, 福岡 将治, 小林 弘信, 東 浩二, 村上 智明, 中島 弘道, 青墳 裕之 (千葉県こども病院 循環器内科)

Keywords: TAPSE, 三尖弁収縮期移動距離, ファロー四徴症

【背景】右心機能の評価はファロー四徴症術後患者の管理において非常に重要であるが、非侵襲的な評価法は未だ標準的なものはない。【目的】ファロー四徴症術後の小児例において、心臓超音波検査による三尖弁収縮期移動距離(TAPSE)の有用性を検討すること。【方法】TAPSEを計測し年齢別の平均値との差 (Δ TAPSE) (cm)を算出。心臓カテーテル検査にて算出した右室駆出率 (RVEF)、右室心拍出量 (RVCI)、右室拡張末期容積係数 (RVEDVi) と比較した。【結果】年齢1歳から13歳 (中央値6歳4か月)。男児6例、女児3例。TAPSE 1.44 ± 0.12 cm、 Δ TAPSE -0.43 ± 0.09 cm、RVEF $52 \pm 2\%$ 、RVCI 2.95 ± 0.2 ml/min/m²、RVEDVi 107.3 ± 7.7 。 Δ TAPSEはRVEF ($r = 0.49, P < 0.001$)、RVCI ($r = 0.56, P < 0.001$)と中等度の相関を示したが、RVEDVi ($r = -0.07, n.s.$)とは相関しなかった。【考察】MRIを用いての右室収縮機能とTAPSEとの相関は過去にも報告されている。今回、心臓カテーテル検査においてもTAPSEとRVEFおよびRVCIとの間に同様の関係がみられた。一方、右室容量負荷の評価にTAPSEは適していないと考えられた。文献的考察を含めて報告する。